



## 国民にお詫び申し上げさせて いただきたいと思ひます

情報広報部副部長 宮本 慎一

誰の発言だと思いますか？ 辻元清美元衆議院議員が秘書給与の詐取容疑で議員辞職した際の記者会見での発言の一部です。「国民にお詫びします」で済むところを誰に申し上げさせられるのか、思うのは勝手だが本当にお詫びするのか、などと考えてしまいます。「させていただきたいと思ひます」という言い方がここ数年の間に、会話の中に急激に増えてきたことに対し、いやな感じを持っています。この「させていただきたいと思ひます」は無知を装うへりくだりの語法で、このような相手の顔を立てることが一番大事みたいな口のきき方は、次の町内旅行の幹事を誰にするかというような相談事のときは差支えないでしょうが、公式の場ではどうでしょうか。

最近、いろいろなところで今まで用いた呼称を換える傾向が強く見られます。国の機関では、省庁名が大きく変わりましたが、中身は従来と大差ありません。医療界では患者を呼ぶのに「〇〇さん」ではなく、「〇〇様」と呼ぶ病院が増えました。何年前にはじめて「患者様」という言葉を耳にしたとき、真っ先に頭に浮かんだことは、三波春夫の「お客様は神様です」と西鉄ライオンズ全盛時の「神様、仏様、稲尾様」でした。しかも、「さま」繋がり「お客様」→「患者様」→「仏様」、とへんな具合に連想してしまったのです。

北海道医報購読料年間3,000円。北海道医師会員にあっては会費の中に含まれています。

8月のある新聞の読者投稿欄に、以下のような意見が掲載されていました。『かかっていた病院で数年前から名前に「さま」をつけて呼ばれるようになった。しかし、医師や看護師、事務員の態度は少しも変わってはず、主治医の説明も良くない。名前に様をつけてもらっても形式ばかりに感づる。病院の広報誌には「患者様が納得される治療」など患者のことはすべて様扱いで書いてある。スーパーやデパートの「お客様」と違って、病院は必要に迫られて、つらい人が行くところであって、「患者様」と呼ばれることに違和感を覚える。「患者様」と言われると、病人が利益を生み出す対象に見られているようで好ましくない』というものです。

★ ★ ★

金田一春彦氏は、言葉を丁寧な形にしても、決して丁寧な意味にならない例として、次のような文章を紹介しています。『「患者様」と言われるのはなんとなく落ち着かない。なぜなら「患者」という言葉自体がすでに悪い印象を与えるため、いくらそれに「様」をつけてもらってもうれしくない。「病人さま」、「怪我人さま」「老人さま」など、いくらがんばっても敬うことにならないのである。「ご来院の方」「外来の方」などというように変えたほうが良いと思われる』

医療に携わるものと患者との日常の関係は、それぞれの個性や通院歴、医療機関の規模や担う役割、地域の特性などで濃淡があり、「患者様」と一括りにできるものではありません。ところが、ある病院団体では「患者様」と呼ぶということとその団体の総意として決議したと聞きました。製薬会社のMRにも、パンフレット片手に「患者様」への処方の際には、などと言う人がいます。国から「患者様」と呼ぶことにしようという、通達でもあったのでしょうか。

次回の診療報酬改定では、「患者様」と言わない医療機関は「患者様減算」が課せられるかもしれません。